

【すいとり】

懐爺によると、忍者は「三無主義」だという。

無音・無臭・無名の三無。

ぬきあし、さしあし、しのびあし。

無音は得意です。

無名は得意もなにも、無名に決まっています。

ところが、無臭がいけない。

ぼくの家のご飯は芋だから、いつもおならばかり。

それで、無臭になる努力をしたわけです。

あれこれ試したのだが、一番効果的なのか、肛門に蓋（ふた）をすること。

はじめは豆で蓋をしたのだが、おならで吹き飛んでしまう。

そこで、芋で蓋をすることにしました。

当然、おならはでない。

しめしめ、これで忍者になったも同じ。

とおもっていたら、おならが止まったかわりに、げっぷがでる。

おならと同じ臭いのげっぷがでる。

口に蓋もできないから、忍者になるのを諦めていたら、あるとき、隣のお姉さんが、小さな壘（びん）をくれたのです。

「これは、なんじゃ」

「香水、というのよ」

「だば、におうじゃろが」

「これは、臭い消しの香水なのよ。吸い取りというの」

「だば、これをつけたら、わしはにおわんのか」

「まったく臭わないとおもうわよ」

やった、とおもったが、こんなものをくれたところをみると、隣のお姉さんは、ぼくのおならに苦しめられていたということか。

どちらにしても、ぼくはその香水をつけて、忍者ごっこをしたわけです。

「どうじゃ、わしはにおわんから、わしがどこにおるか、わからんじゃろ」

と云うと、田貫くんは、

「いんや、におうで」

木恒くんも、

「たしかに、におうで」

ふたりして接近すると、ぼくのからだを嗅ぎはじめました。

そのとたん、ふたりは気絶しました。

「これは、なんじゃ」

隣のお姉さんに、もう一度確かめると、

「香水、というのよ。正式の名前は、吸い取り」

「けんど、におったらしいのう」

ぼくは田貫くんと木恒くんが、気絶した話をしました。

「あれは、臭い消しの、吸い取り香水ですわ。だから、田貫くんと木恒くんの、怪しい臭いを吸い取っちゃったのね」

「においを、すいとられたら、きぜつするんか」

「きっと、あのふたり、よほど怪しい臭いだったんでしょうね。それで吸い取りが、気まで吸い取っちゃったんですわ」

と云って、お姉さんは微笑しました。